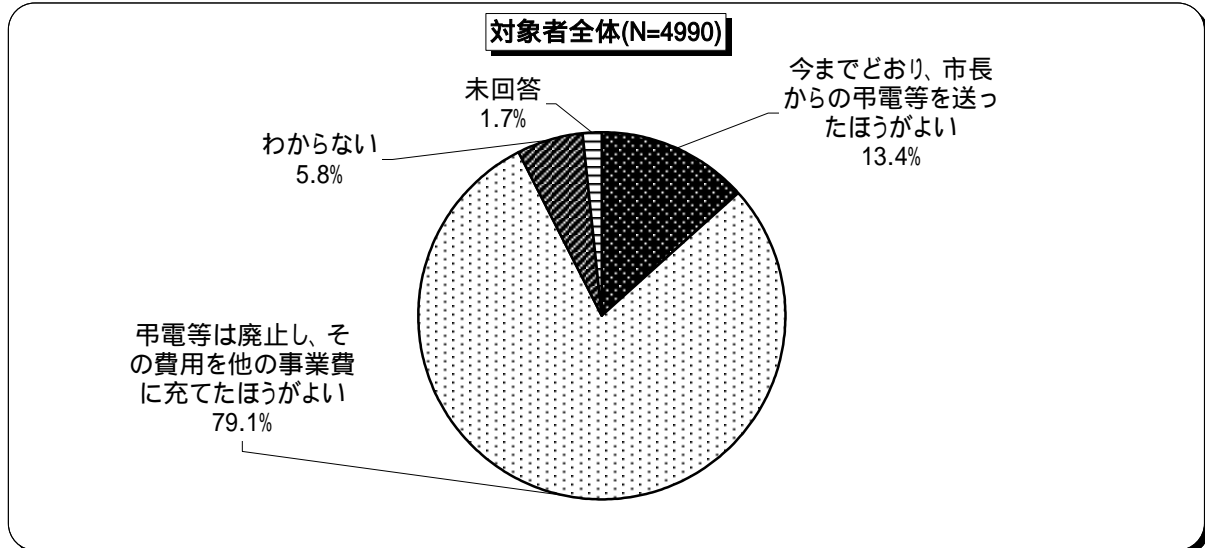


高齢の市民が亡くなられた場合の弔電・弔花の送付について

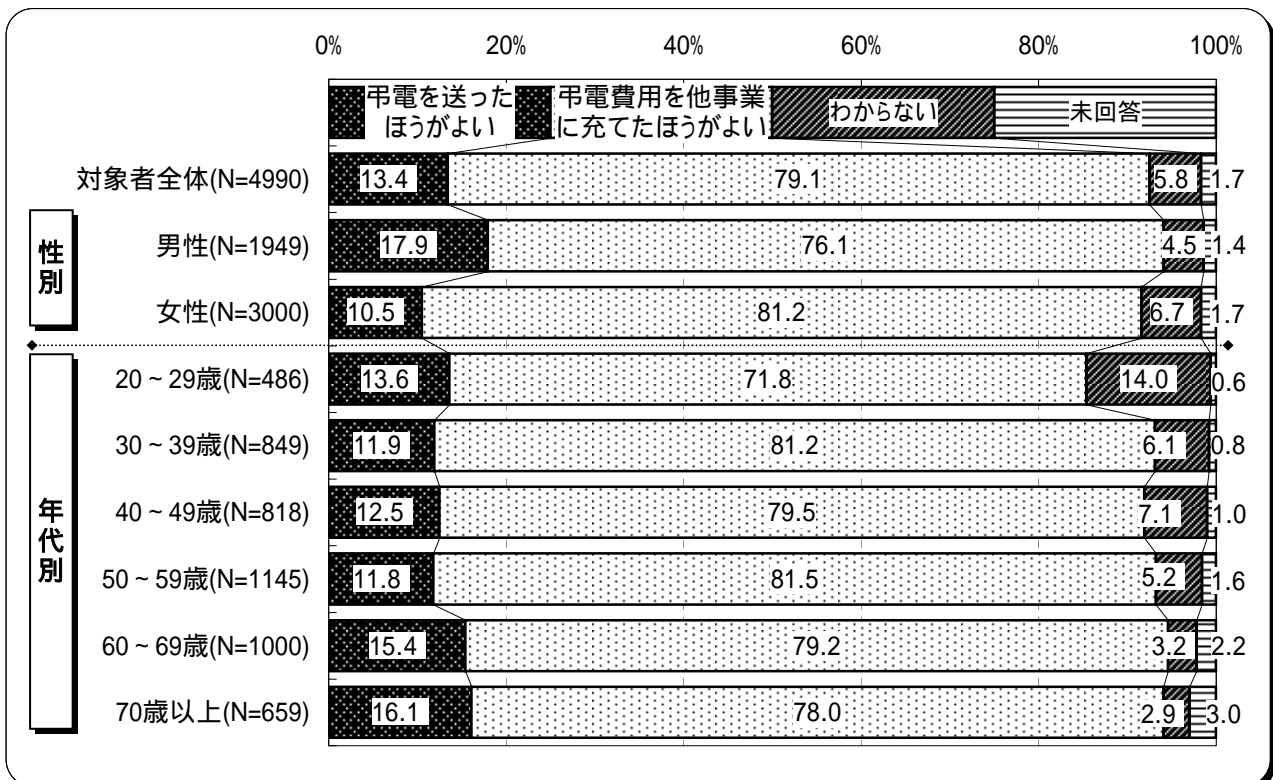
70歳から99歳の市民が亡くなった場合の市長名による弔電等の必要性

問4 70歳から99歳の市民がお亡くなりになられた場合、市長名による弔電等を送付させていただいてありますが、必要だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでつけてください。

70歳から99歳の市民が亡くなった場合の市長名による弔電等の必要性については、「弔電等は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」が8割弱。



【対象者全体】「弔電等は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」が79.1%、「今までどおり、市長からの弔電等を送ったほうがよい」が13.4%となっている。



【性別】「弔電等は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」の値は、男性が76.1%、女性が81.2%で女性が男性より5.1ポイント高い値となっている。

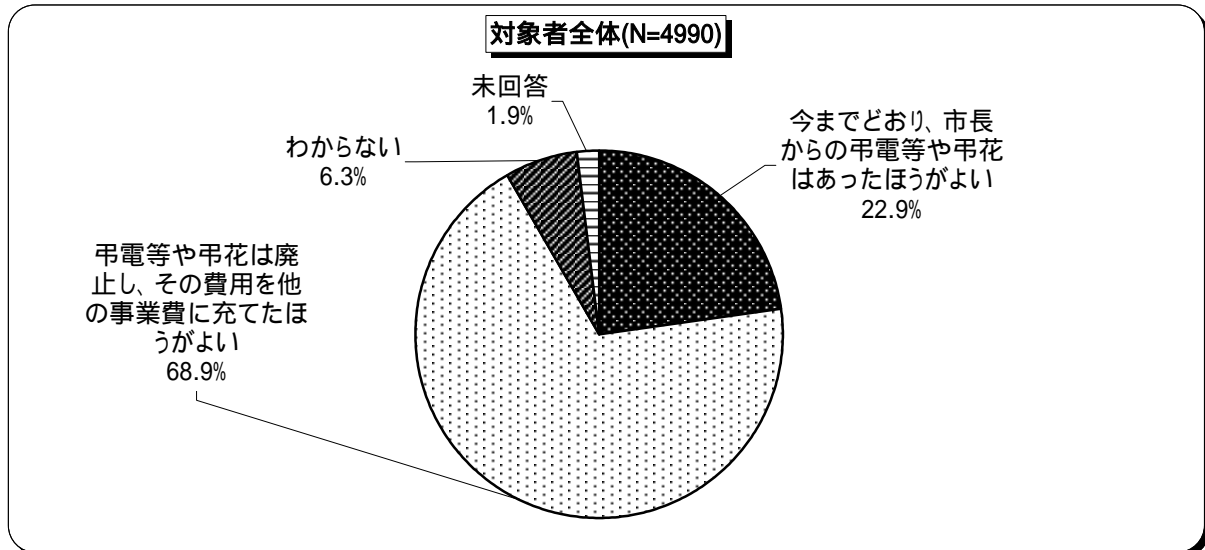
【年代別】「弔電等は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」の値が高い年代順に、50代(81.5%)、30代(81.2%)、40代(79.5%)、60代(79.2%)、70歳以上(78.0%)、20代(71.8%)となっている。「弔電等を他の事業費に充てたほうがよい」の値が最も高い50代(81.5%)と最も低い20代(71.8%)で9.7ポイントの差となっている。

高齢の市民が亡くなられた場合の弔電・弔花の送付について

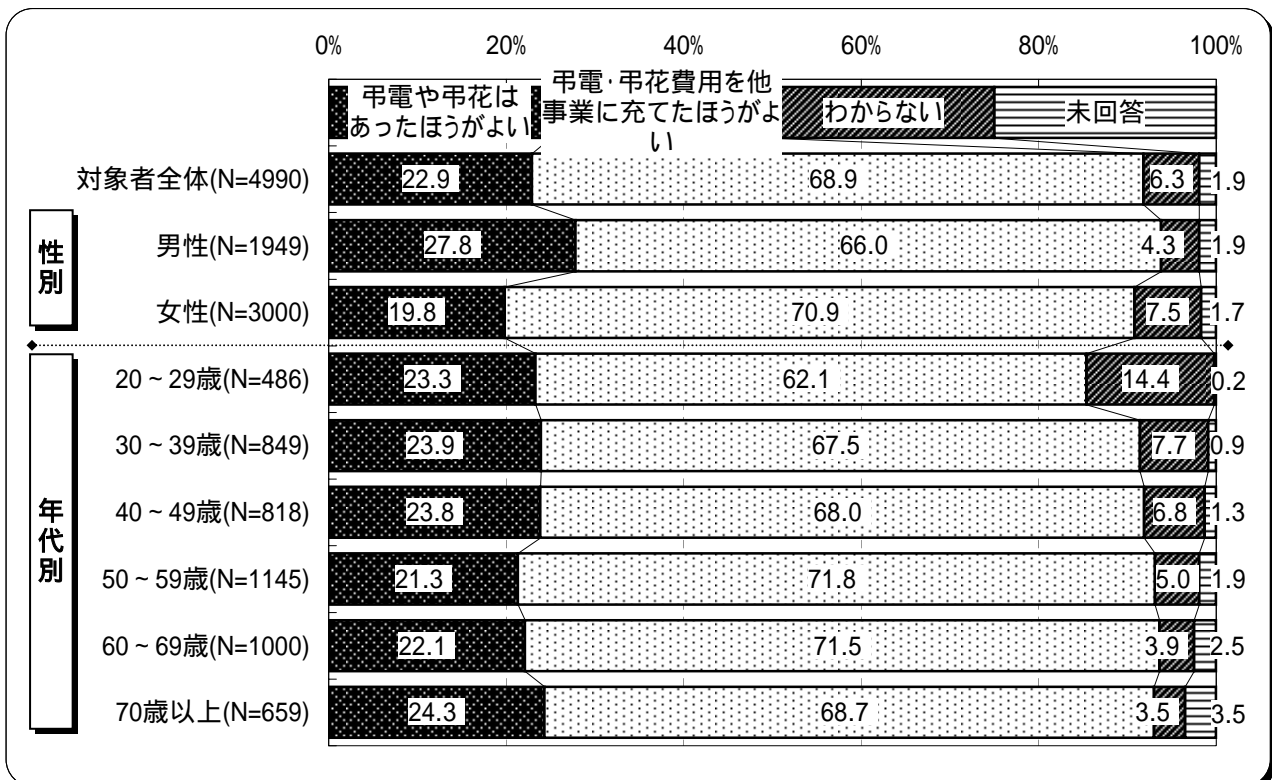
100歳以上の市民が亡くなった場合の市長名による弔電等・弔花の必要性

問5 100歳以上の市民がお亡くなりになられた場合、市長名による弔電(レタックス)を送付するほかに、弔花を供えさせていただいておりますが、必要だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでつけてください。

100歳以上の市民が亡くなった場合の市長名による弔電等・弔花の必要性については、「弔電等や弔花は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」が7割弱。



【対象者全体】「弔電等や弔花は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」が68.9%、「今までどおり、市長からの弔電等や弔花はあったほうがよい」が22.9%となっている。



【性別】「弔電等や弔花は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」の値は、男性が66.0%、女性が70.9%で女性が男性より4.9ポイント高い値となっている。

【年代別】「弔電等や弔花は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」の値が高い年代順に、50代(71.8%)、60代(71.5%)、70歳以上(68.7%)、40代(68.0%)、30代(67.5%)、20代(62.1%)となっている。「弔電等や弔花は廃止し、その費用を他の事業費に充てたほうがよい」の値が最も高い50代(71.8%)と最も低い20代(62.1%)で9.7ポイントの差となっている。

市長からの弔電等・弔花の送付について(自由回答)

問6 その他、市長からの弔電等・弔花の送付について、ご意見がありましたらご記入ください。

(N = 1,482)

この設問には、1,482人の方が回答を記載しました(複数意見の記載あり)。主なものは次のとおりです。

今までどおり、あった方がよい

他の経費を見直せば、継続は可能と思う	43件
高齢者に敬意を払うこと、感謝をすることが大切	35件
自分の身内が亡くなったとき心遣いにありがたく思った	5件

廃止し、他の事業費に充てたほうがよい

形式的、事務的に送付されていると感じるので	86件
高齢者に限定するのはおかしいと思うので	71件
今後高齢化が進み、ますます経費が増えると思うので	61件

また、他の事業の希望として、「医療費や介護、福祉などに充ててほしい」(70件)、「高齢者のために活用してほしい」(60件)、「少子化対策に充ててほしい」(45件)などの意見がありました。

その他

送付の内容を安価にするなどして見直しを	220件
対象年齢を引き上げるなど、対象者の見直しを	155件
このような制度を知らなかった	75件